

建築家が創るHOPデザイン。  
森を建てよう。



存在そのものが美しい、素材の力が活きる家

東京都T邸

日本の美意識の一つに「存在そのもの」を賛美する、というものがあります。この建物が、豊かな表情の外観を際立たせるのは、イタリアの花崗岩。木材は何本もの丸太からすぐれた木目を選び、和室の柱は吉野で特別な柾目入手。天井板と床柱には屋久杉を使い、床板は輪島の漆職人が仕上げました。この邸宅の素材すべてに物語があるので。パブリックスペースは床・壁ともに全面大理石で仕上げ、天井は無垢のタモやヒバ材で構成。重厚感のある格式高い空間へと昇華させています。プライベートスペースは、ナラやタモなど無垢の木で包み込み、温かみのある空間としました。自然から切り出し、技術を駆使して形作った人々の思いが重なる、唯一無二の邸宅がここに完成しました。

テラスから見たリビングの様子。本格的な格天井は宮大工がタモ材とヒバ材の無垢で組み上げたもの。繊細さと豪快さが混ざり合った空間となった。  
撮影 / 木田 勝久